

— 次のほう線部のカタカナを漢字で書きなさい。 —

- ① 市役所のスイトウ係。
- ② ロウホウがもたらされた。
- ③ ピアノでバンソウする。
- ④ 文書にシヨメイする。
- ⑤ テツソクを守る。
- ⑥ カメラをカマえる。
- ⑦ ゾウキバヤシの中を通る。
- ⑧ あれこれとシアンする。
- ⑨ タイキヨしておしかける。
- ⑩ 予想がテキチュウする。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

次の文章は、ある小学校の物語です。上田真白（ましろ）は友人のモモちゃんと同じ学校の生徒が出席する陸上競技の大会の応援に行くことになりました。行く途中（とちゅう）、同じクラスの草太の妹の香純（かすみ）ちゃんと会います。香純ちゃんは病気のため両足の長さがほんのちよつとだけ違（ちが）い、いつも歩きづらそうにしています。真白は、香純ちゃんが歩きづらそうにしているのは病気ではなく怪我（けが）だと思い、以前、雨の日に香純ちゃんが傘（かさ）を差して歩いていたときに、代わりに差して、一緒に帰ってあげたことがあります。そのことについて、草太から「なんで香純の傘、上田が差してやったりしたんだよ」と言われ、真白は「それは……大変そうだったし、かわいそうだと思ったから……」と答えたら、草太から、「同情してんじゃねーよ！」と言われました。以下は真白とモモちゃんが大会に出かける場面です。

テレビは朝から「梅雨（つゆ）明け」という言葉を連呼して、どのチャンネルも競（きそ）うように空を映し出していた。でも、このどんな映像を映そうと、今、私が見上げている本物の空には敵

（かな）わないはずだ。

雲ひとつない、抜（ぬ）けるような青空。それはもう、見事な快晴で——今日はいいい日になる！ ならないはずがない！ って、言いきってしまったるほどに、気持ちのいい空だった。

モモちゃんとは約束通りバス停で会い、競技場のある県立公園に着いた。ここは、野球場や体育館、池やアスレチック、もちろん競技場も併設（へいせつ）された、とにかく広い公園だ。園内の地図を何度も確認（かくにん）しなければ、いきいたるところにたどり着けそうもない。

「さてと。競技場へいくには……」

モモちゃんと私とで園内の地図を見ているときだった。

ハアハアと息を切らして、女の子が走ってきた。

「香純ちゃん！」

「上田さん……！」

香純ちゃんは、【A】顔で私を見た。

「競技場、どっちか教えてもらえますか？」

「私たちも、これから競技場を探していこうと思っていたんだけど……どうしたの？」

「実は、お兄ちゃんに水筒（すいとう）を届けなくちゃならなくて……」

こんなに暑くなりそうな日だというのに、草太は水筒を忘れたのだ

だろう。で、香純ちゃんが水筒を渡（わた）すことになったのだけれど、競技場が見つからない。時間はどんどん過ぎる。

開会式が始まってしまったら、草太に水筒を渡せるかわからない……。

「それに私……走るの遅（おそ）いし……」

そこまで言うと、ついに堪（こら）えきれなくなったのか、香純ちゃんの目からポロリと涙（なみだ）がこぼれた。

「香純ちゃん。その水筒、私に預けてくれない？」

「え？」

「私が走って草太に届ける」

「でも……」

「いいの。まかせて！」

「じゃあ水筒は真白ちゃんにお願いして、私と香純ちゃんは、競技場の観覧席に向かう。……ね、香純ちゃん」

不安と緊張（きんちょう）でこわばっていた香純ちゃんの表情が、みるみるほじめていった。

香純ちゃんの思いがこもった水筒を、私はしっかりと受け取る。

今、自分はどこにいて、どこへ向かったらいいのかを、公園内の地図でしっかりと確認。

そして私は、草太の元へと一気に走り出した――。

ハア、ハア、ハア……。

快晴の空の下（もと）、全速力で走って、なんとか競技場までたどり着いた。

でも、そこから草太を探すのにまた時間がかかった。競技場のまわりをぐるりと、学校ごとにスペースを振（ふ）り分けられているらしかったけれど、市内にはかなりの数の学校があり、私は、あつちにもこつちにもある似たような集団の中を駆（か）け巡（めぐ）ることになった。

どう見ても選手には見えない私がウロチョロすることに恐縮（きょうしゆく）しながら、それでも、一刻も早く草太に会いたい一心で、私は探し回った。

ようやくうちの学校のスペースにたどり着き、草太の姿を見つけたのは、そろそろ開会式のための整列の声がかかる頃（ころ）だった。

「そ、草太……っ」

ゼイゼイと情けないほど息が乱れたまま、草太に声をかける。

「あれ、上田？」

「これ。香純ちゃんに途中で会って。草太に渡したいって……」

「あ……」

水筒を渡す時に、うちの学校の荷物を移動させている様子がチラリと目に入った。

スポーツバッグや応援幕（おうえんまく）、それから大きなウォータージャグ……。

「あゝっ、ちゃんと学校で水の用意してあったんだ」

私は、ヘナヘナと力が抜けた。

「考えてみれば、そうだね。ないわけないよね……ハハッ」

私は【 B 】のと、自分の必死さが【 C 】の

とで、ごまかすように笑った。

だけど、水筒を受け取ったものの、草太は何も言わない。

「……私、また余計なことしちやった？」

「……」

「また同情してんじゃねえよ、って言われちゃう？」

「……」

「香純ちゃん、草太に水筒を渡すために必死で走って……私、ほっておけなかった。同情じゃないよ！ っていうか、この間傘を差したときだって同情のつもりはなかったよ！」

私は草太に、私のことをわかってほしかった。

「私、親切と同情の違いが、ちゃんとわかっていないのかもしれない…… かわいそうだったから」なんて言い方してごめんなさい。でもなんていうか、やり方は間違っちゃったかもしれないし、それで、これからも間違っちゃうこともあるかもしれないけど、それでも私……香純ちゃんのこと好きだから、だから……」

「（1）違う」

草太に言葉をさえぎられた。

「親切と同情の違いなんて、オレもわかってない。つかオレが一番わかってないのかもしれない。なのに香純のこととなると、人一倍ピリピリしちゃうって……上田はそんなじゃないってわかってるのに。だから……ごめ」

んは聞こえなかった。でも、それで充分だった。

「草太（2）……」

まわりがざわざわしてきた。開会式に向けて、選手たちはそろそろ移動しなければならぬらしく、各々（おのおの）、柔軟（じゅうなん）体操をやめたり、荷物を持ち始めたりしている。

「それであの、（3）図々（ずうずう）しいかもしれないけど……」

草太は時間が気になるのか、早口で言いだした。

「何？」

「香純、家で上田の話をしているとき、すっげー楽しそうだった」

「そうなんだ、よかった」

「だから、それで……」

草太はそこまで言うと、（4）髪（かみ）の毛（け）をくしゃくしゃさせた。そしてもう一度「だから」と言うと、その先は思い切ったように一気に言った。

「香純と仲良くしてやって。できれば……お姉（ねえ）さんみたいな感じで」

「え……」

「って、思ったんだけど……。別に特別なことじゃなくて、ときどき話しかけてくれるだけでいいから……。いや、やっぱり今の取り消し」

「……取り消さないで」

「え」

「私の方こそ、姉妹（しまい）みたいに仲良くさせて……」

パッと顔を上げた草太の顔は、火照（ほて）ったように赤かった。私の顔も熱い。同じように赤かったんじゃないかと思う。

そのとき「おい、向こうに移動みたいだぞー」と、仲間から声がかかった。

草太は「じゃあ」と言っ、仲間のいるほうへと戻（もど）っていく。

でも「あつ」と言うと、ちょっと離れた私に向かって、大きな声で言った。

「ありがとう。……水筒」

私も草太に負けないような声で、ずっと言いたかったことを……もしかしたら雨の中、練習している姿を見たあのときから言いたかったことを、思いきって言った。

この場で言うには、あまりにもありふれた、当たり前の一言だったけど。

「【 D 】——と。」

競技場内は圧巻の広さだった。

三六〇度ぐるりと囲む観客席。そして頭上には、視界をさえぎるものが何もない大きな楕円（だえん）形の青空。

私は自分の学校の人たちが集まっているエリアを探し、そこでモちゃん、香純ちゃんと合流した。無事に水筒を渡したことを伝え、香純ちゃんはとても喜んで何度もお礼を言ってくれた。

美早妃（みさき）たちもきていた。「真白たちもきたんだ」と、あまりいい顔はされなかったけれど、一緒（いっしょ）にうちの学校を応援（おうえん）しよう、と、笑顔（えがお）を返しておいた。

この大会は、競技の記録を正確に取り、それを元に順位をつけていく記録会だったから、運動会のような応援をしてはいけなかった。できることといえば、遠くから競技をながめ、心の中で応援するくらい。それでも自分の学校の選手の出番は、知らない子だとしても力が入った。ましてや、知っている子なら、なおさらだ。

佑臣（ゆうしん）はハードル走、聖良（せいら）は走り幅跳（はしりはつと）（はばと）びにエントリーされていた。

ふたりとも、やっぱり学校代表だけあって、フォームもキレイだし、私には考えられないような記録を出していた。とはいっても大

会出場者はみんな、その学校のトップレベル。

佑臣も聖良も、ここでの記録は、残念ながら全体の平均よりなるとか上、というところに留(とど)まった。

そして、いよいよ100メートル走。

……草太の番がきた。

定期的に聞こえてくるピストルの音を合図に、選手は次々に100メートルを駆け抜けていく。私は陸上のはよくわからないけど、かつこいいフォームくらい、それなりにわかる。

草太がスタートラインに着いた。

モモちゃんは「次、草太だね」と無邪気(むじゃき)に言っている。

「お兄ちゃん、がんばって」

香純ちゃんの声が聞こえる。

私も心の中で、香純ちゃんと同じ言葉を唱えた。さつき草太に言った言葉。そして今、さらに強く思う言葉。

「位置に着いて」

スターターの声が無機質に聞こえる。私が走るわけじゃないのに、心臓がドキドキする。

「よーい」

ああ……っ。

大会は終わった。

草太は、市内五位。それでもすごい成績なのに、三位以内の入賞をねらっていた草太はとても悔(くや)しがっていたと、*イダテンから聞いた。

大会の後、草太には会えなかった。選手たちは学校ごと移動するらしく、応援にきている人は、ほとんど接触(せつしょく)できなかった。

バスを降りたところでモモちゃんと別れると、私はそのまま無性(むしょう)に走りたくなくて、今こうして走っている。

息が上がって苦しい。

胸の奥(おく)に、(5)何か、とてつもなく大きいものを抱(かか)えてしまったみたいな感じがする。

辻みゆきの文章による

*イダテン 真白の担任の先生のあだ名。

問一 【A】に入る言葉として、最も適当なものを次から選び、その記号を書きなさい。

ア 不思議そうな イ 晴れやかな

ウ 困り果てた エ 驚いたような

問二 【B】 【C】に入る言葉の組み合わせとして、最も適当なものを次から選び、その記号を書きなさい。

天を仰(あお)ぎたい気持ちになったその瞬間(しゅんかん)、パァン、というピストルの乾いた音が響(ひび)いた。

選手たちは、何かに弾(はじ)かれたように走り出す。

草太……！

まわりの音は、何も聞こえない。そのかわり、聞こえるはずのない草太の足音が迫(せま)りくるように聞こえる気がする。

草太が走る。

草太が風を生む。

草太が風そのものになる。

草太、がんばれ。

0・01秒、ううん、0・001秒でも速く。そのために練習してきたんだから。

それから……草太が少しでも速い記録を出そうとするのは、もしかしたら香純ちゃんのためでもあるかもしれないと、ちらっと思う。

ああ、でもそれだけじゃない。

やっぱり何より、草太は走るのが好きだから。

好きなことを好きと言って、まっすぐがんばれる人だから。

私は、そんな草太が――

私は今、全力で走っている。

い。

ア B おそろしい C ばからしい

イ B 情けない C 恥(は)ずかしい

ウ B つらい C 誇(ほこ)らしい

エ B うれしい C おもしろい

問三 波線(1)「違う」とありますが、草太は何が違うといっているのですか。「上田が」に続く形で、二行以内で説明しなさい。

問四 波線(2)「……」の時の真白の気持ちを説明したものとして、最も適当なものを次から選び、その記号を書きなさい。

ア 予想通りの答えでよろこんでいる

イ 思いが伝わらずいらしている

ウ 意外なことを言われて傷ついている

エ 分かってもらえてほっとしている

問五 波線(3)「図々しい」とありますが、草太はどのようなことを図々しいと思っていますか。三十字以上四十字以内で書きなさい。

問六 波線(4)のような態度を草太が取った理由を説明したものとして、最も適当なものを次から選び、その記号を書きなさい。

ア 言いたいことがなかなか言えず、もどかしかったから。

イ 暑い中でずっと話をしていたので、いらいらしたから。
ウ 香純のことでピリピリしてしまう自分が情けなかったから。

エ 自分が好きな真白と話ができてとてもうれしかったから。

問七 「 D 」に入る言葉として、最も適当なものを次から選び、その記号を書きなさい。

ア 大好きだよ

イ ありがとう

ウ がんばってね

エ また、あとでね

問八 波線(5)「何か、とてつもなく大きいもの」とは何かを説明しなさい。

問九 この文章を「真白が物語。」という一文でまとめなさい。
ただし、「く」に入る言葉は三十字以上四十字以内とします。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

世界で、もつとも資源やエネルギーを使っているのは、だれでしょうか。こんなデータがあります。一九六〇年には、世界で最も豊かな人々二〇パーセントと、最も貧しい人たち二〇パーセントの経済格差は、三〇対一でした。―― A ―、一九九〇年には六〇対一、二〇〇二年には一一四対一にまで拡大してきました。そして二〇一七年には、世界人口の一パーセントの富裕層(ふゆうそう)が、世界の資産のほぼ四八パーセントをにぎっていると言われるようになりました。世界のたった二〇パーセントしかない最も豊かな人たちが、世界の資源・エネルギーのなんと八〇パーセントを消費しているのです。象徴(しょうちょう)的なのが、多国籍企業(たこくせきぎやう)の急成長(膨張(ぼうちやう))です。
現在、多国籍企業の売上上位五社で、最も貧しい国四九カ国のGDP(国内総生産)の合計一五六〇億ドルよりも大きいのです。
もつとわかりやすい例でいうと、二〇〇二年に日本人一人が消費していたエネルギー量は、アフリカの最貧国(さいひんこく)一人当たりの消費量の七四五年分にも上るのです。

まるで、かつてのヨーロッパの*王侯(おうこう)貴族・資本家たちが、便利で快適な生活を送るために、アフリカ大陸から、資源

や、奴隷(どれい)としてたくさんの人々から奪(うば)っていたのと、(1)あまり変わりが無いように思えます。これらのデータを見るだけでも、ぼくらは、一人ひとりの生活水準はどうであれ、日本全体でみると、いまだに、世界全体の中で、格差社会のトップに立っていることがわかります。

格差社会のトップに立っている日本をふくめた先進国が、「もつと―― B ―」で、「もつと―― C ―」な生活を求めて、たくさん資源やエネルギーを使い、大量の商品やサービスを創(つく)り出し、そして、使わなくなったらすぐに捨ててしまふ。そんな大量生産、大量消費、大量廃棄(はいき)の経済を、維持(いじ)、どこるか発展させようとしています。

ここで、一度、立ち止まって、「何が本当の幸せな生活なんだろう」と、もう一度、ぼくらの生活をふり返る時期なのかもしれません。無限に経済成長できると信じている、ぼくらの生活の在り方や、その考え方を見直すことで、資源やエネルギーの必要以上の消費をおさえることができるはず。結果として、それらのものをめぐる、アフリカなどの紛争(ふんそう)を回避(かいひ)したり解決したりすることにつながるでしょう。

まずは、自分たちの生活が、世界全体で見て、どのクラスのもの

なのかを*把握(はあく)することから、(2) 平和をつくる仕事は始まるのです。

アフリカで起きる紛争を前にして、ほくらに何ができるのか、と、(3) 途方(とほう)に暮れてしまうかもしれません。けれども、先ほどより紹介(しょうかい)しているように、鉱物資源やエネルギーが、紛争の大きな要因となっているのなら、それらのものを使って生産されるモノやサービスを購入(こうにゆう)する消費者(エンドユーザー)である(4) ほくらの「選択(せんたく)」にこそ、大きな希望があるのです。

だって、どんな企業も、消費者が買わない商品やサービスを生産・提供し続けることはできないのです。だからこそ、何を購入するかを決めるほくらにこそ、アフリカの紛争を回避・解決する、世界の平和をつくるささやかなチカラがあると、ほくは信じるのです。

そんな話をすると、時折、このようなことをおっしゃる方がいます。

「けれども、コンゴ民主共和国のような資源をめぐって紛争が続いている国は、その資源を売って、うるおっているのでしょうか。紛

争にまつわる資源を、先進国が買わなくなった時、その人たちの生活はどうなってしまうの。仕方がないことじゃない」

ぜひ、みなさんには知っておいてほしい事実があります。私たちが、アフリカから資源を買い続けても、アフリカの多くの人々の暮らしは、よくなっていないのです。

二〇〇〇年代に入って、アフリカ経済の急成長を支えた産油国では、GDP(国民総生産)は成長してきました。けれども、人々の基礎(きそ)的な暮らしの度合いを測る*指標(人間開発指標)は、ほとんど変わっていないか、むしろ低くなっています。

(5) このような事実を直視したうえで、まず、私たちにできることは、資源やエネルギーを、地域(自国)で循環(じゅんかん)させる仕組みを作っていくことです。遠くはなれた国から資源を輸入して、大量消費するのではなく、国内(各地域・自治体)で生産されたモノやサービスを、できるだけ買うようにして、地域の中で「お金(資源)」が回るようにしていくことです。

とくにエネルギーの「D」(自給率をあげること)は重要です。多くの国が、資源(石油)を輸入しようとすればするほど、権益争いも激しくなります。

問一 一 A 一 に入る言葉として最も適当なものを次から選び、その記号を書きなさい。

A だから イ たとえば ウ そして エ けれども

問二 波線(1)「あまり変わりがない」とは、何と何が「変わりがない」と筆者は言いたいのですか。筆者の主張を二行以内で書きなさい。

問三 一 B 一 C 一 に入る言葉として適当なものをそれぞれ、これよりも前から漢字二字で探して、書きなさい。

問四 波線(2)「平和をつくる仕事」として当てはまらないものを次からすべて選び、その記号を書きなさい。

A どんな物が使われているかを調べ、買うものを決めること。

イ 貧しい国から資源を買ってあげ、商品を作っていくこと。
ウ 自分にとって本当の幸せな生活とは何なのか考えること。
エ 自分のところにある多様なエネルギー資源を利用すること。

オ 大量の商品やサービスを創り出し、他の国に売り出すこと。

問五 波線(3)「途方に暮れる」の使い方として最も適当なものを次から選び、その記号を書きなさい。

ア 数学の難問が解け、途方に暮れる。

イ 収入がなくなり、途方に暮れる。

ウ すばらしい演技に、途方に暮れる。

エ 最後まで戦いぬくと、途方に暮れる。

問六 波線(4)が表している内容を、五十字以上七十字以内で説明しなさい。

問七 次の文は、波線(5)が表している内容を説明しています。空らんに入る言葉を「 i 」は二字、

「 ii 」は三字で文章中から探して書きなさい。

紛争が続いている国から「 i 」を買いつけても、
現地の人たちの「 ii 」は改善されない。

問八 「 D 」に入る言葉として最も適当なものを次から選び、その記号を書きなさい。

- ア 大量消費 イ 地産地消
ウ 地元特産 エ 大量輸出

